



厳肅に齋行された廣田弘毅先生の顕彰祭＝福岡県護国神社参集殿で



館報

玄洋134号

令和元年9月1日

発行

一般社団法人
玄洋社記念館

郵便番号 810-0062

福岡市中央区荒戸三丁目

6番36号

西公園ハイツ201号

電話 (092) 762-2511

FAX (092) 762-2502

新元号のもと厳肅に

廣田先生顕彰祭を齋行

令和の御代も畏敬の念は変わらず

軍部の横暴の抑制を図つたにも関わらず極東国際軍事裁判、いわゆる「東京裁判」で、文民でただ一人、死刑の判決を受けた刑死した福岡県が生んだ悲運の宰相、廣田弘毅先生の顕彰祭が、さる五月十八日、行われた。一般社団法人玄洋社記念館の主催。

例年、福岡市中央区城内五の廣田先生の銅像の前で行われるが、同日は天候不良のため、福岡県護国神社に会場を替え齋行された。足下のわるい中を崇敬者ら約三十人が参列した。

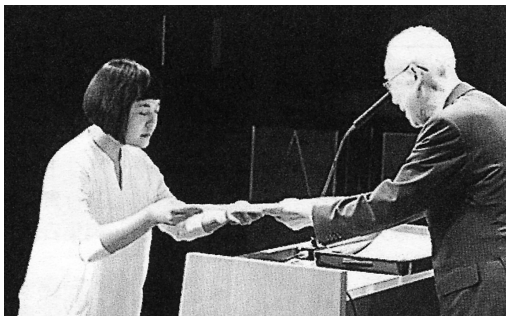
同神社の田村豊彦宮司を祭主に、祝詞奏上、玉串奉奠、玄洋社記念館の吉村剛太郎理事長による祭文奉読、筑前琵琶の献奏などで廣田先生を慰霊し、ご遺徳を顕彰した。

玄洋社憲則

- 第一条 皇室ヲ敬戴ス可シ
- 第二条 本国ヲ愛重ス可シ
- 第三条 人民ノ権利ヲ固守ス可シ

今号の主な内容

- ▽志士・国臣の生誕祭を齋行 2面
- ▽「松原桜」助命の橋渡し役、川合さん逝去 3面
- ▽令和元年度賛助会員芳名録 4面
- ▽新元号で僥倖に沸く太宰府市 5面
- ▽「福岡だより」 7面



文部科学大臣賞を授与される高木青鳳さん 日本琵琶楽協会機関誌「琵琶楽」より

献奏された筑前琵琶の曲は北川晃二作詞、青山旭子作曲の「廣田弘毅」。作曲者の筑前琵琶保存会会主、青山旭子さんと弟子で同会教司、高木青鳳さんが情感あふれる演奏を聞かせた。

高木青鳳さんは、昨年九月九日に東京で開かれた

作詞者の北川晃二氏は、大正九年生まれで故人だが、昭和五十年、廣田先生の伝記『黙してゆかむ』を著し講談社から出版されている地元、福岡の作家。

廣田先生は、東京裁判の法廷では一言の弁解もせず、国士の志を貫いた。戦犯の指定を受け出頭する日、学生寮「浩浩居」の寮生を呼び「常に国のため命を賭してきたつもりだ。しかし、一切の弁解はしないつもりでいる」と言い残している。

銅像の前で五年ぶり

志士・國臣の生誕祭

勤皇・倒幕に奔走し、福岡市中央区西公園に立
 鹿兒島・錦江湾で入水し、つ國臣の銅像の前で催さ
 た西郷隆盛を救助した福れた。平野神社（山内圭
 岡藩の志士、平野國臣の司宮司）の主催。
 生誕祭が三月二十三日、國臣の生誕祭は例年、



銅像の前で盛大に催された平野國臣の生誕祭

同区地行一丁目の平野神
 社で、また、五年ごとに
 銅像前で催される。

今年は國臣の生誕百九
 十一年、没後百五十五年、
 銅像再建五十五周年に当
 たる。北海道や関東、関
 西など各地から駆けつけ
 たご遺族はじめ、國臣の
 崇敬者ら約八十人が参列
 した。

山内宮司を祭主に、國
 臣を慰霊、顕彰する神事
 が厳粛に執り行われた。
 奉納行事が多彩だっ
 た。

福岡藩の秘伝だった杖
 道「神道夢想流」はじめ
 劍術、鎖鎌術の武道演武
 が披露され、國臣が生き
 た時代を彷彿とさせた。

「戯曲・平野國臣」は、
 國臣が西郷隆盛とともに
 勤皇の僧、月照を薩摩に
 入国させようと苦心する
 過程を筑前琵琶や語り、
 和歌朗詠で聞かせた。

國臣の玄孫で、大阪府
 豊中市在住の原国俊氏
 (70)は「この銅像が、
 若い人が歴史を学び新し
 い時代を築くための役に
 立つと信じている」と挨拶
 した。



写真④は國臣生誕祭に参
列した人たち⑤は戯曲・
平野國臣の上演

筑前風濤録

頭山満と玄洋社

〈18〉

題字は進藤一馬福岡市長

柳 猛直

試練の時代

寺田屋騒動は維新史の中でも最も悲惨な事件で
 はあったが、これを契機に時勢は急角度に屈折し、
 かつ激しさを加え、急流となっていく。

筑前では平野國臣が枡木屋の獄で、籠(こ)に
 住む憂き目を味わっていた。加藤司書を中心と
 する筑前勤王派も、まだ活発な動きは見せていな
 い。この時期、維新への爆発のエネルギーが至る
 ところで蓄積されつつあったのだが、後年、玄洋社
 で活躍する人々はまだ少年あるいは幼年期で手習
 いに精を出していた時代であった。

文久二年(一八六二年)の年齢をあげてみよう。

- (いずれも数え年)
- 箱田六輔 十三歳
- 進藤喜平太 十二歳
- 平岡浩太郎 十二歳
- 頭山満 八歳
- 奈良原至 六歳
- 来島恒喜 四歳
- 杉山茂丸はまだ生まれていなかった。
- 伏見寺田屋で尊攘激徒を鎮圧した島津久光は勅
 使・大原重徳に随って東上した。
- 大原重徳は六十二歳であったが気性の激しい慷慨
 (こうがい)家で、將軍に対して攘夷の実行と
 幕政の改革(一橋慶喜、松平慶永の挙用を含む)

「松原桜」助命の願いを橋渡し

元九電社長

川合辰雄さん逝去

102歳

九州電力の社長、会長を務めた川合辰雄さんが、さる三月三日、病氣のため逝去された。百二歳だった。

川合さんは、明朗闊達（かつたつ）な人柄で知られ、社業はもちろん、九州の経済、文化の発展にも大きく貢献されたが、道路拡幅工事で伐採寸前の道路沿いの「松原桜」（福岡市南区松原一丁目）が救われた、「松原桜の物語」の一連の過程では、市民の助命の願いを当時の進藤一馬市長（玄洋社記念館創設者）に橋渡しする重要な役割を果たしておられた。

「松原桜の物語」は、こうである。

昭和五十九年三月十一日、桜の伐採計画を知った「松原桜」近くに住む銀行員（当時）、土居善胤さん（90）は、助命の

和歌を色紙に書いて桜の幹にくくりつけた。

「花守り進藤市長殿

花あわれ せめてはあと二旬 ついの開化をゆるし給え」

それを、やはり「松原



今年も花を咲かせた「松原桜」を、大勢の市民が見物に訪れた
＝3月31日撮影

桜」の近くに住む川合さん（当時、九電社長）がジョギング中に目にし

た。川合さんは出社して会社の秘書に「なんとかならないかな」。秘書は、親しい新聞記者に「松原に面白いものがある」と告げた。現場に赴いた記者は「これはビッグニュース」と記事にした。

進藤市長は登庁前の朝、自宅で記事を読んだ。そして「風流とは、まさ

にこのことだな」と長女の洋子さん（故人）に言ったという。

進藤市長は「市長でも私情で行政は動かせないが、なんとか花の命を延ばす方法はないものだろうか」と思い、登庁して担当部署にそう伝えた

（進藤市長の聞き書き「雲峰閑話」より）。

担当部署は、進藤市長の意をくんで、桜を切らずにすむように計画を少し変えた。

「松原桜」は今春も美しい花を開いた。多くの市民が見物にやってきた。学校で松原桜の和歌を作ったという中学生の息子と、毎年春、桜を背景に家族写真を撮っているという親子も訪れた。

南区役所は「松原桜」を地域振興の資源としてさまざまな場面で活用している。川合さんが取った橋渡しの労は、意義が大きい。

川合さんのお別れの会が三月十日、福岡市のホテルで開かれたが八百人の人が参列して別れを惜しんだ。

を求める勅旨を伝えた。

幕府の側では薩摩の国父といふものの無位無冠の島津久光が勅使に随行して威勢をふるうのを快く思わない。久光は終始、白眼視されて本人も決して愉快ではなかったようである。朝廷と幕府の力関係は既に逆転していたのである。

久光は、ともかく彼なりの国事周旋を終わって江戸を出発し帰国の途につくのだが文久二年八月二十一日、神奈川近くの生麦（なまむぎ）村で大事件を起こす。久光の行列の供先を切ったイギリス人を供の藩士が斬って一人を殺し二人に重傷を負わせた。

久光は尊攘派からは攘夷の魁（さきがけ）として賞賛をあびるのだが幕府は大迷惑を蒙ったあげく巨額の賠償金を支払わされることになる。

賠償金十萬ポンドは銀貨で支払われるのだが、その時の状況を当時イギリス公使館の通訳官であったアーネスト・サトウ（のちに駐日公使）は次のように書いている。

「朝早くから各二千ドル入りの箱を積んだ荷馬車が公使館に到着し始めた。公使館ではシナ人の貨幣鑑定人（貨幣が本物かどうか検査するため極東において商人や銀行家が雇っている者）の全部を貨幣の検査と勘定のため方々から駆り集めた。記録室は、これらのインテリ・シナ人で混雑した。彼らは貨幣と貨幣をぶっつけてみたり、いくつかに分けて積み上げたり、これを箱に詰めて艦隊の甲板へ運ばせたりするの忙しく立ち働いた。この仕事は三日間かかった」（坂田精一訳「一外交官の見た明治維新」）

この賠償金支払いも、すんなり行われたものではなく幾多の紛糾と曲折があった。

（この項続く）

賛助会員芳名録

令和元年度

5月22日受け付け分まで (敬称略)

▼法人・団体の部

【三万円】

(株)中日本開発(名古屋)

(株)アキラ水産(福岡)

九州第一工業(同)

九星飲料工業(糸島)

中村工業(福岡)

警固神社(同)

社会医療法人原土井病院(同)

東海大学(福岡)

駿和物流(福岡)

人吉球磨正剛会(熊本県人吉市)

筑前琵琶保存会(福岡)

▼個人の部

【三万円】

上田藤兵衛(京都)

吉村剛太郎(福岡)

花田 勲(東京)

【二万円】

大江田 信(太宰府)

妹尾 俊見(福岡)

【一万円】

内藤 武宣(東京)

工藤 慶(西宮)

戸高 有基 (津久見市)
坂井 貞夫 (福岡市)
櫻木 高士 (徳島県阿南市)
原 祐一 (福岡市)
谷本 憲彦 (広島市)
草野 和子 (松江市)
箱田 克輔 (狛江市)
秋吉 謙一 (久留米市)
日野 俊二 (筑紫野市)
濱地勝太郎 (栃木県下野市)
梶原 昂 (福岡市)
山田 真 (筑紫野市)
安川 重臣 (福岡市)
平湯 芳裕 (名古屋)
堀内 恭彦 (福岡市)
中本 零時 (東京)
豊沢 猛 (福岡市)
横田 進太 (同)
室 潔 (東京)
小野 稔 (福岡宮若市)
生武 治 (福岡市)
国松 誠 (藤沢市)
堤田 智 (福岡市)
岩崎 成敏 (同)

進藤 玄 (府中市)
二之湯 智 (京都市)
荒津 茂徳 (愛知県日進市)
妹尾 正為 (福岡市)
大原 毅 (同)
坂牧 大陸 (同)
魚谷 哲央 (京都市)
吉武 義和 (防府市)
吉武 健志 (同)
梅本 真央 (福岡市)
西本 潤也 (同)
庄野崎徹二 (同)
進藤 訓子 (同)
西嶋 俊成 (同)
三木 年史 (徳島市)
庵原 義一 (古賀市)
縄田 智行 (福岡市)
箱田 満輔 (小平市)
有馬 學 (東京都)
後藤 元生 (福岡市)
武田 漑 (さいたま市)
八坂 俊輔 (西之表市)
福田 明彦 (福岡市)
西口 英世 (川越市)
村井 正隆 (久留米市)
廣田 弘一 (福岡市)
鬼木 誠 (同)
小石原 昭 (東京)
塩川 隆三 (福岡市)
松田 元信 (東近江市)
西方 忍 (福岡市)
興膳 克彦 (中間市)

山城 直之 (福岡市)
柴田 文彦 (同)
坂上 英雄 (大阪市)
田坂 大蔵 (福岡市)
坂本 茂生 (太宰府市)
渡邊 一馬 (別府市)
濱地 光男 (大府市)
速開 正澄 (福岡市)
柴田 文雄 (同)
小野 勇夫 (同)
後藤 龍神 (福岡県筑前町)
三原 朝彦 (北九州市)
中井美佐子 (松江市)
木戸 龍一 (糸島市)
酒井 智堂 (鹿児島市)
藤田 道子 (福岡市)
長岡 聖司 (同)
山内 圭司 (同)
大島 泰治 (大野城市)
駕海 量良 (国立市)
池内 公子 (北海道遠軽町)

お礼の言葉

今年度も、大勢の皆様から賛助会費のご納入を賜り誠にありがとうございました。

今後とも、ご指導、ご鞭撻(べんたつ)を、どうぞよろしくお願いいたします。(事務局)



福岡市中央区荒戸一丁目十四番十一号の中野正剛先生生誕地の前の電柱に「生家跡」の表示板が掲示された写真。

中野先生の生誕地表示

福岡の町おこしに取り組む市民団体「ハカタリバイバルプラン」の活動の一環。

中野正剛先生顕彰会

「中野正剛先生顕彰祭」を開催
 本年の「中野正剛先生顕彰祭」を、次のとおり開催します。どなたでも参加できます。参加希望者は、中野正剛先生顕彰会事務局へ電話またはFAXで早めにお申し込みください。

◇日時 令和元年10月26日(土曜日) 午前11時開始

◇場所 鳥飼八幡宮境内「中野正剛先生銅像」前(福岡市中央区今川2丁目1・17)

◇参加費 雨天の場合は同宮参集殿
 式典だけ参加の方は千円、直会(なおらい)にも参加の方は、ほかに3千円。

◇電話 092・762・2511
 ◇FAX 092・762・2502

新元号「令和」ゆかりの地 僥倖に沸く太宰府市

来訪客対応に大わらわ

平成天皇のご退位によって、元号は五月一日から「令和」に変わった。それに先立つ四月一日、菅義偉官房長官から新元号が発表されると、福岡県太宰府市は瞬時に全国の注目を集める存在になった。「令和」の典拠である「万葉集」の「梅花の歌三十二首」の「序文」



「令和」の額を持って記念写真を撮る坂本八幡宮の観光客＝平成31年4月13日撮影

が、古代、九州一帯の統治をした役所「大宰府」の長官だった大伴旅人によって書かれたことが伝えられたからだった。

「大宰府」は、現在の太宰府市にあった。福岡市から急行電車で約40分。学問の神様、菅原道真公を祭る太宰府天満宮の門前町で知られる。

同市の史跡・大宰府政庁跡の一角に発掘資料などを展示する「大宰府展示館」がある。目立たない存在だったが、新元号発表の日から観光客が全国から押し寄せ、四月二日から七日までの六日間で一万人を突破した。政庁跡のすぐ横に「坂本八幡神社」がある。こ

こに旅人邸があったといわれ、「梅花の歌三十二首」は、天平二年（七三〇）正月十三日（旧暦）、旅人が自邸で催した「梅花の宴」で詠まれたといわれる。（序文の筆者や旅人邸の位置には他の説もある）

四月末からの十連休も手伝って、同市を訪れる観光客の勢いは、今も止まらない。

押し寄せる観光客の対応に、同市は行政も、民間も大わらわだ。

坂本八幡宮を維持する地区の人たちは境内にテントを張り、写真撮影用に「令和」と揮毫（きごう）した額を準備して来訪者を迎えている。ボランティアの史跡解説員グループは、研修会を開いた。市は駐車場に警備員を配置した。

新元号が運んでき僥倖（ぎょうこう）に太宰府市は沸いている。これまで「天満宮」を柱に栄えてきたが、これからは「令和ゆかりの地」を加えた二本柱の観光資源で、客を呼び寄せる構えだ。

HARADOI HOSPITAL

原土井病院

理事長 原 寛

〒813-8588
福岡市東区青葉6丁目40番8号
☎092-691-3881(代)
http://www.haradoi-hospital.com/

（財）日本医療機能評価機構認定
開放型病院・臨床研修指定病院

BEPPU

株式会社 別府梢風園

代表取締役社長 別府 壽信

本社 〒835 福岡市東区青葉一丁目六一五三
TEL 〇九二一六九一〇七八(代)
FAX 〇九二一六九一四五四
E-mail: info@shouten.co.jp

造園・緑化 自然とコミュニケーション

GENNANSO

株式会社 玄南荘

代表取締役社長 溯上 高当

本社 福岡市中央区荒戸二丁目三十四一
TEL 〇九二七一五六一一
FAX 〇九二七五二〇六三三
http://gennanso.com/ fukuoka@gennanso.com

学生会館（学生寮）・単身者向け事業
受託給食・F&Bレストランサービス事業

AKIRA
Oh, Fresh! Sea foods.

株式会社 アキラ水産

代表取締役社長 安部 泰宏

本社 福岡市中央区長浜3丁目11-311
電話 092-711-6601(代表)

関連会社/株式会社コウトク水産

鮮魚卸業

福岡鮮魚市場のコア企業!! 21世紀の水産業界を領導するアキラグループ

建設コンサルタンツ
建設事業の計画・調査・設計・施工管理

ジーアンドエス・エンジニアリング株式会社

会長 花田 和久

代表取締役社長 児玉 和久

本社 福岡市博多区東比恵三丁目二四一-9
〒812-0007 電話 092-48113100

東京支社 東京都杉並区高円寺南一丁目三三-1
〒166-0003 電話 03-537815800

営業所 千葉・浦和・神奈川・山口・佐賀・北九州・大分・長崎

西郷隆盛は

征韓論者にあらず

⑤

(昭和六十一年四月発行「玄洋」特別号外版より再録)

誤認の歴史を改めさす為

〈4〉

葦津珍彦

(前号から)

西郷の真意を誤る流表

これが西郷が閣議で主張して承認を得た経過を、はつきりと自筆で書き各参議に同意させた点をとめた文書だ。現代讀者に注意しておくが、当時是对日外交の英佛の公館は、横浜に常時護衛軍隊を駐留させていた。西郷は、それを非礼と信じて、韓国が少々の乱暴をして、日本は、英佛のような非礼外交はせぬ、公然たる礼節道義の説得外交で人事をつくすというので「征韓」の語など一語もない。道義的説得使節の熱望である。

(文字は詳しくは書翰大成第四巻参照)

西郷は、征韓論にブレキをかけた。ところが世間では、西郷が行けば必ず征韓の役がおこるとの流説が高まっていた。議長として右のような西郷の主張を採決した三條すらも「西郷の心中は確かめがたい」と流説に迷っており、岩倉や大久保、木戸は西郷のこの文を見ても、西郷を征韓論者と決めてしまつて、西郷渡韓に反対して西郷を下野させる。

くの私信を書いている。それは征韓論者を宥める目的をもって書いた論法だと思われるが、その書簡の中に一つの疑点を感じさせた語がある。そのなかの文で、武断主義の板垣が、武力背景の外交でなくては韓国は動かぬ、礼節では話がつかぬとの論なのでおそらく礼節道義外交の私が「死ぬ事になるから、韓国の事は、私が死んでから、その後での貴方の仕事にしてくれ」との論法を用いて説得した。あまりに、はつきりと「死ぬ」と書いてあるので板垣は「これは西郷が自ら死地を選び、日本の最高官が暴殺されたとの理由で、征韓をやれとの名分を立てるのではあるまいか」と推測した。西郷が、自分が殺されるのは困ると思つて、板垣は「死を急がないでくれ」と回書した。

西郷は「死生の判断は、私がよく心得ている。決して死に急いだりせぬが、死後に軍事の要がある時は、ぜひとも貴方に頼む」と云うことなのだ」と回答している。西郷は、必死懸命で、礼節をつくした道義外交にとめり、自分が生きていられる限りは、道義を固守するが、自分が死んでしまえば、それから後の事は、力及ばない。板垣に対して、礼節外交を望んでも致し方ないのは分かっている。死後まで板垣を指図する権能はないし、それは板垣流でも致し方ないが、自分が生きていられる限りは、礼節正しい道義外交を貫きたい自分を特使として認めてくれ」と頼んだのだ。

威圧外交の主張者だった板垣も、西郷が、それほどまでの決心ならば、西郷特使の礼節道義外交でよからう。西郷ならば、決して国の威信を傷つけるような外交はせぬと認めて、西郷特使案に、積極的に同意した。西郷は、猛り立つ一部日本の威圧外交論者を苦心説得するに成功した。かれは今までの三流外交官とは違つて、維新政府の最高位にあるのだから、釜山など

でなく京城に行き、李王朝の国王なり最高実力者と会談できる。そこで必死懸命に、礼節を尽くし直談判で、日韓の命運を決する説得を熱望した。かれは「死に急ぎはせぬ。生死の判断は私が心得ている」との語で、その礼節ある説得外交への自信を、ひそかに板垣にも示した。

だが板垣が初め誤つて推測したような流説が予想外にひろまつた。この短絡推理の流説解釈が、西郷から征韓の主張を一語も聞かない三條、岩倉、木戸までを怪しませた。後世の西郷崇敬者の知識人―内村鑑三著「代表的日本人」―ですらも、これと似た認識をしたので、後世に西郷征韓論説が、なかなか根づよい認識をさせることになつたかと思う。

たゞ私は大久保は分かっていたと思うのだが、多少問題がある。彼は昔から西郷無二の親友であり同志であつて、その心底を知ることとも深い。西郷の心中が分から

ないはずがない。かれは岩倉より遙かに早く帰郷しており、東京政局の消息もよく見つけながら、しかも沈黙していた。彼は外遊中の留守政府の仕事に不満で自ら辞任を考えていたらしくも見える。しかし帰朝した岩倉の懇請によつて、渡欧中にかれが学び、かつ思想した欧米的政治哲学によつて、東洋的の西郷の政治哲学と鋭く相対決することとなる。

それは明治維新の建設のあつた西郷と大久保とが、近代国家日本の進路を立てようとする時期に、その政治哲学の本質について相対決したことを示すものである。それは深刻にして重大な思想対決であつた。在野の自由人は、ともあれ、政治家にして西郷と大久保ほどの思想的信念対決の歴史を残した政治家は、その後一世紀の間に現れなかつた。大久保の見識と理論もまた、その根底を深く知るべきである。

(次号に続く)

榊田神社の表参道

石畳風に模様替え

博多っ子の氏神様、榊田神社（福岡市博多区上川端町）の表参道が、普通のアスファルト舗装から、石畳風の舗装に模様替えされた。

参道は、榊田神社の楼門前から、JR博多駅に通じる「大博通り」までの約二百三十メートル。この三月末に工事を終えた。

参道には博多織、博多人形などの博多の伝統工芸や歴史を伝える市立「博多町家」ふるさと館、古い歴史のある卸問屋、旅館などがあって博多情緒が漂う。参道が石畳風の舗装になって、博多らしさが、一段と高まった。

従来から多くの国内外の観光客が訪れていた



石畳風に模様替えした榊田神社の表参道。左端の碑に三先覚の名がある

が、参道の模様替えて、いっそう人気が高まりそ
うだ。

同市は、博多区以外の
地区の著名な寺院前の通

道のうち、榊田神社楼門
から約百二十メートルは、明治

りでも同様の工事を行
い、観光振興を意識した
博多らしさの雰囲気の高
り上げを図っている。

**地元が建設を断念
玄洋社先覚が寄贈**

榊田神社の現在の表参
道

三十五年六月に完成し
た。

明治二十四年から、地
元の人々が参道を建設し
ようと、いくらかの土地
を買収したが、諸般の事
情で中断せざるを得なく
なった。

事情を知った玄洋社の

平岡浩太郎、大野仁平、
児島哲太郎の三先覚が全
額を寄付して出来上がった。
参道は後に大博通り
まで延長された。

平岡浩太郎は玄洋社の
初代社長。福岡県の産炭
地だった筑豊地方で炭鉱
を経営した。大野仁平は

博多の侠客で、平岡浩太
郎を助け炭鉱事業に従事
した。児島哲太郎も炭鉱
の鉱長を務めた。

参道の脇に自然石で出
来た高さ約一・五メートルの碑
が建っている。正面に「寄
附主」として、三先覚の
氏名が刻まれている。

映画のレイトショーは 博多山笠から始まった

博多っ子の血を沸かす
福岡市の博多祇園山笠
は、今年も七月一日から
十五日まで華麗かつ豪快
に展開された。

き、博多の人々の暮らし
に有形、無形の影響を与
えてきたといえる。

七百七十年余の歴史を
誇る祭りは、博多の人々
との共鳴で時代を生き抜
く

現在、全国の映画館、
劇場で行われている深夜
興業の「レイトショー」
もその一つ。発端は、博
多祇園山笠なのだ。



今年も博多っ子を楽しませた博多祇園山笠

山笠は、榊田神社（福
岡市博多区上川端町）に
山笠を昇（か）き入れる
十五日午前四時五十九分
からの「追い山」でクラ
イマックスを迎える。
観客は前夜から町に出
て「追い山」までの時間
を待つ。これに着目した
のが映画館だった。
昭和二十九年七月十四
日、福岡市内の繁華街の
映画館五館が十五日午前
四時半まで「オールナイ
ト」の連続上映を敢行し
た。これが当たり。館
内の売店では、すしやサ
ンドイッチも飛ぶように
売れた。
これに味をしめて、追
い山前夜のオールナイト
上映は恒例となり、現在
の年中実施のレイトショ
ーにつながっている。

玄洋社関係史料の紹介

石瀧 豊美

第76回

同時代から見た頭山満 (20)

―書と人物―

今回の情報は前・国士館大学教授で、現在『国士館百年史』編纂委員会専門委員会の委員長を務められている佐々博雄さんより教えられたものです。

杉並区立郷土博物館だより『炬辺閑話』第六〇号(平成三十一年三月発行)に「一枚の古写真と区内の史跡」という文章が掲載されています。執筆したのは山田兼一郎氏で現在は国士館史資料室に勤務しておられます。

山田氏が博物館に着任し「近所の史跡巡りで石碑を見学した」と、また「博物館に今年度寄贈された数枚の古写真を見たこと」、この二つが結びついて右の一文が書かれることになりました。

古写真は「壮年の男性

と立派な白髭をたくわえた老人」が写り、それが鈴木吟亮(三十二歳)と頭山満(七十七歳)でした。山田氏によると、鈴木吟亮は詩吟・吟風会の創設者で吟亮流吟風会総本部は今も杉並区にあるということ。昭和五年(一九三〇)創設で、写真はその頃のもののようです。また、地元紙「杉並日報」は吟亮を「頭山翁と肝胆相照らす」間柄として報じているのとことです。

派創立した後に後見していただいた頭山先生のお供で多摩にお出かけになった際に撮影されたと思われる映像。」と説明があります。車を降り杖をついて建物に入り、カメラの前で記念撮影し、部屋に上がって数人で火鉢を囲む。次に亭々とした木々に囲まれた中、テント(記帳所のように見える)を張った境内を歩き、迎への黒塗りの車に乗り込むまで、カメラが頭山満を追っています。正確にはわかりませんが、あるいは多摩御陵(武蔵陵墓地)を参拝したのでしょうか。

さて、山田氏がかつて史跡めぐりで見た天沼八幡神社(天沼二十八・五)の「国体明徴」碑(一七七センチ×八〇センチ)を思い出し、現地を再訪します。表に頭山満の字で「国体明徴」、裏に鈴木吟亮起草の二八文字が刻まれ、昭和己卯四月の年紀があります。干支で己卯(きぼう・つちのとう)は昭和十四年(一九三九)です。



写真1 天沼八幡神社

友人の佐藤誠さんに改めて写真撮影をお願いしました。写真1が天沼八幡神社(旧多摩郡天沼村鎮座)。写真2では「国体明徴」の左下に「頭山満」の署名と印二顆が捺されています(写真3)。「立雲」です。



写真2 国体明徴碑(表)



写真3 頭山満の署名



写真4 国体明徴碑(裏)

裏面の二八文字は鈴木吟亮起草(写真4)。拝草は拝みながら文章を書いたという意味)で、「時局非常有所思明徴国体事須期/建碑聊表心衷赤虔 精神靈照鑑垂」と、二行に書き分けられています(旧字体を新字体に改めています)。このままでは意味がよくわかりませんが、七文字ずつの四行で「時局は非常に思いう所有り。国体を明徴する事すべからく期すべし。碑を建ていささか心衷の赤き(赤心・誠実な心)を表す。うやうやしく神靈に捧る。照鑑(神がごらんになること)を垂れたまえ。」と読んでみました。最後のところは、なにとぞ私たちの誠意をお聞き届けください、といったところでしょう。

国体明徴は昭和十年に日本社会を席卷した言葉で、天皇を中心とした日本の国体のあり方をはっきりさせる、というような意味です。美濃部達吉の天皇機関説を排撃する動きと結びついています。この記念碑は昭和十四年という時期から見て、天皇機関説への危機感というより(美濃部の著書は昭和十年に発禁となる)、もう少し精神的な信念のようなものに基づくようです。著名な神社というより、鈴木吟亮が地元の鎮守にひっそりと建てたことにもそれがうかがわれます。いずれにせよ、頭山満と鈴木吟亮の緊密な結びつきを知ることができました。

佐々博雄さん、佐藤誠さんにお礼申し上げます。また山田兼一郎様の学恩を蒙りました。お礼申し上げます。